

公益財団法人8020推進財団
平成23年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：避難所に対する長期的なビジョンを持った歯科保健活動

2. 申請者名：社団法人 仙台歯科医師会
代表者名 長田 純一

3. 実施組織：仙台歯科医師会・仙台市・宮城県歯科衛生士会

4. 事業の概要

大震災後のライフラインが制限された避難所生活では特に高齢者の誤嚥性肺炎が懸念され、口腔ケアの重要性が唱えられている。仙台歯科医師会は東日本大震災発生直後から仙台市の要請を受け避難所に赴き宮城県歯科衛生士会の協力のもと14302名の避難者を対象に口腔ケアをはじめとする歯科保健医療活動を行ってきた。それらの活動の意義、及び当活動が避難者にどのような効果をもたらしたのか、仙台の地域性の影響も含めた検証を試みたいと考えている。この調査研究事業により、被災地の歯科医師会として長期的に歯科保健活動を継続するためのプログラムの構築、そして今後の大規模災害時の歯科の役割について考察したい。

5. 事業の内容

仙台市において東日本大震災発災後から7月末に全避難所が閉塞されるまで、避難所訪問歯科保健活動を下表の通り実施した。

(避難所口腔ケア実施状況総括)

		3月	4月	5月	6月	7月	合計
実施避難所数		65	28	8	3	1	105
口腔ケア指導を受けた人	集団	12291	327	200	44	0	12863
	個別	852	496	66	12	13	1439

従事者（延）

- ・仙台歯科医師会及び宮城県歯科衛生士会：仙歯会103人，宮衛会24人
- ・保健福祉センター：歯科医師14人，歯科衛生士63人，
- ・ボランティア歯科医師等：歯科医師21人

実施後の評価を行い、今後の課題を検討した。

6. 実施後の評価（今後の課題）

- ・被災者の避難生活期間中に誤嚥性肺炎に起因すると思われる死亡例は発生しなかった。
- ・過去の大震災（阪神淡路・新潟中越）の教訓が生かされているのか避難所における口腔ケアの重要性については認知度が高かった。
- ・同じ大震災でも阪神淡路大震災や新潟中越地震と今回の大震災はそれぞれ被害状況が異なり、避難所での被災者の環境も様々であることが分かり、それに応じた対応が必要であると思われる。